

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：12601

研究種目：学術変革領域研究(B)

研究期間：2021～2023

課題番号：21H05139

研究課題名（和文）死の脳内表象：「死」はどのように認識されるのか？（総括班）

研究課題名（英文）Neural representation of "Death" (general affairs)

研究代表者

奥山 輝大 (Okuyama, Teruhiro)

東京大学・定量生命科学研究所・准教授

研究者番号：80625955

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 600,000 円

研究成果の概要（和文）：学術変革領域研究（B）「死の脳内表象」領域を円滑に運営するため、総括班としての活動し相互連携が行いやすい研究基盤を整備した。また、2度に渡る領域会議（2021年熊本・2022年成田）を開催し密なディスカッションを行った。また、2023年度の日本神経科学学会大会では、当該領域のシンポジウムを開催し、研究実績を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2023年度の日本神経科学学会大会において開催したシンポジウムでは、多くの神経科学研究者に対して、アニマシー知覚の神経メカニズム理解をこえて「死の脳内表象」を解析する本研究領域の意義について紹介した。

研究成果の概要（英文）：To smoothly manage our research group (Neural representation of "Death", Grant-in-Aid for Transformative Research Areas-B), we conducted activities as the coordinating team and held two closed conferences (Kumamoto in 2021 and Narita in 2022) for intensive discussions. Additionally, at the 2023 annual meeting of the Japan Neuroscience Society, we organized a symposium for this specific field and presented our research achievements.

研究分野：行動神経科学

キーワード：社会性神経科学 死認識

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

私たちヒトは、他者の「死」を認識し、死者に対して埋葬などの儀礼を行う。動物界全体へと目を向けると、ゴリラ・チンパンジーのような霊長類から昆虫まで多くの動物が、同種他個体の死者に対して種特異的で多様な行動を示す事が、行動学研究によって記載されてきた。多くの場合、「死体」とは自らにとっての危険の象徴であり、逃走・警戒・忌避といった強い負の情動の発現を伴う。従って、「死」の認識はどの動物にとっても自身の生存に直結する、極めて根源的な脳機能である。それにも関わらず、これまでその中枢神経基盤はほとんど明らかにされてこなかった。この「死の脳内表象」のメカニズムを明らかにするため、本学術変革領域研究(B)「死の脳内表象:「死」はどのように認識されるのか?」を立ち上げた。

2. 研究の目的

本課題は学術変革領域研究(B)「死の脳内表象」領域を、総括班として円滑に運営することを目的とする。

3. 研究の方法

本領域を円滑に運営するための方法を、計画班員内で相談するため、Slackを中心としたディスカッションプラットフォームを作成した。また、各計画研究が共同研究を行っている研究者にもSlackに入ってもらい、研究のみならず領域運営方法に対しても自由に意見を述べられる環境を整備した。ディスカッションの中で、本領域の研究成果を研究者コミュニティ、および、アウトリーチするために、研究シンポジウムの開催、および、X(旧Twitter)・Webサイトでの研究成果発表が効果的だという結論となり、後述する研究成果に至った。

4. 研究成果

学術変革領域研究(B)「死の脳内表象」領域を円滑に運営するため、総括班としての活動し相互連携が行いやすい研究基盤を整備した。また、2度に渡る領域会議を開催し密なディスカッションを行った。2021年熊本で開催された第1回領域会議では、三浦班が飼育する熊本大学のハダカデバネズミの飼育施設を見学するとともに、2日間に渡るディスカッションを行った。2022年成田で開催された第2回領域会議では、各計画研究代表だけではなく領域アドバイザーの先生方、各計画班の構成メンバーも参加し、2日間に渡る研究発表会を行なった。また、2023年度の日本神経科学学会大会では、当該領域のシンポジウムを開催し、研究実績を発表した。



日本神経科学学会大会におけるシンポジウム開催



2022年成田で開催された第2回領域会議

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹内 春樹 (Takeuchi Haruki) (70548859)	東京大学・大学院理学系研究科(理学部)・教授 (12601)	
研究分担者	三浦 恭子 (Miura Kyoko) (80583062)	熊本大学・大学院生命科学研究部(医)・教授 (17401)	
研究分担者	加藤 英明 (Kato Hideaki) (80805961)	東京大学・先端科学技術研究センター・教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関